

事業所名	従業員規模	所在地	支援テーマ	支援回数
株式会社 ベリーズバトン	従業員 6人 パート 10人 技能実習生 5人	栃木県真岡市	経営継承と法人化	専門家派遣回数 3回

相談内容・現状課題

■相談内容

後継者であるA氏から(以下、「後継者」)から相談(平成31年4月)。
 ・経営主である父(以下、「経営主」)が、令和2年6月に満65歳を迎え農業者年金を受給するに当たり、経営主からの経営継承と併せて法人化を行い、企業の経営を実践することによって優秀な人材を確保していきたい。
 ・いちご法人経営体として栃木県のいちご生産者のリーダー的な地位を確立したい。
 ・5年後に経営3ha、売上額3億円の達成を目指したい。

■現状課題等

- ① 現在の経営は個人経営であり、多額の税金を払っている。
- ② 経営主が社会保険加入に係る会社負担から法人化に反対の意向であるため、法人経営全体から見た会社負担について理解を得る必要がある。

相談所の支援体制・伴走支援チームからの改善提案(問題解決方法)

■支援内容

後継者の意向を踏まえ、家族4人(経営主夫婦、後継者夫婦)と税理士が参加した法人化の勉強会を開催。

過去3年の確定申告を基に、法人化のメリット・デメリットを説明し、理解を促した。

特に、経営主が抱えている「法人化により社会保険加入が義務付けられ会社の負担が増す」という考えに対して、実際には「法人化により逆に会社の負担は少なくなる」ことについて理解を得た。

<提案内容>

- ① 課税所得や納税額、規模拡大の意向から判断して、法人化は「待ったなし」の状況。
- ② 法人化後は、経営主から農地、機械、ビニールハウス等の資産を借りて経営開始することが望ましい。
- ③ 代表取締役は後継者、会長又は顧問は経営主、取締役は経営主妻及び後継者妻が望ましい。
- ④ 経営主の利益が最も少ない時期(10月1日)が法人化に適している。



専門家による説明

支援の成果・その後の状況

■支援の成果・その後の状況

令和元年10月1日に株式会社ベリーズバトン設立した。社名の「ベリーズバトン」は、『いちごを次の世代につないでいく』という意味である。

雇用環境を充実させ、令和2年4月に1名、7月に1名の従業員を採用する予定。また、同年4月には栃木県内の農業高校(3校)を巡回し、来年度採用に向けた会社説明を行う予定であり、事前説明では学校側から好感触を得たところ。



採用者予定のお二人



農業高校訪問の様子

■コーディネーター所感

今回のような他産業にも引けを取らない業績を獲得している事業体では事業と家計を一緒に財布にしておくことのデメリットは大きい。経営を改善、発展させていくためには、まず経営の良し悪しを合理的に判断しなければならず、事業と家計を分離する法人化はその第一歩となることをあらかじめ相談者に理解いただくことで、スムーズな法人化に繋げることができた事例である。